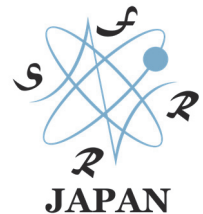


SFRR Japan NEWSLETTER January 1, 2022



Top News

2022年 寅年



年頭のご挨拶

理事長 内藤 裕二

(京都市立医科大学学生免疫栄養学講座)



新年を迎え、会員のみなさまにおかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。一昨年から世界中に拡大した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の第5波が終息し、今年こそ会員のみなさんとのリアルな交流が可能になるのではと期待していました。ところが、昨年12月から新たなオミクロン株の出現により、多くの学会がWEBを利用せざるを得なくなっています。しかし、ワクチン開発の迅速化、軽症に対する経口治療薬の臨床応用も進み、明るい兆しも見えてきています。



COVID-19禍ではありますが、本学会の目指すべき社会貢献においても世界的な大きな流れにのみ込まれつつあります。2030年までに世界が取り組むべき17の持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) を掲げ、Well-beingを目標にした健康対策、抗加齢医学研究が盛んになっています。人の疾病・死因を分類するICD-11 (International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems; 国際疾病分類の第11回改訂版) も公表され、その中には老化関連のエクステンションコード (ST9T) が作られました。老化は病気かもしれない、病気であれば治療できる、といった考えも生まれてきています。

さらに、国連気候変動枠組条約第26回締約国会議 (COP26) での議論の結果も少なからず会員の皆さんの研究に影響を与えています。世界が+1.5℃の温暖化抑制目標を達成しようとするなら、現在計画されている石炭、石油、天然ガスの採掘プロジェクトの多くは、実現不可能になります。日本は世界一の長寿国になりました。しかし、日本人はもともと健康な食品を摂取していたわけでも、日本に健康的な食事が伝統的に存在していたわけでもありません。明治時代以前の平均寿命は50歳程度と短命でした。つまり栄養学など科学・医学の力によってその成果として手に入れたものです。2050年の地球人口予測は30%増の98億人です。動物、人、植物、環境の健康は相互に関連しているため、「One Health」といった総合的なアプローチが極めて重要な時代となりつつあります。生態系の健康、動物の健康を守ることが、人の健康を守ることに繋がっていきます。

こういった時代に日本酸化ストレス学会として何ができるのか、副理事長の赤池孝章先生 (東北大学)、事務局長の半田 修先生 (川崎医科大学) はじめ各委員の先生方と相談しながら、継続的な課題に取り組んでいきたいと考えています。会員の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

◇2022年-2023年新役員候補が選出されました◇

次回代議員総会 (2022年5月開催: 筑波予定) を持って、役員 (理事・監事)・代議員全員が任期満了を迎え、先の選挙で選出された役員・代議員にて、新体制となります。

理事: 29名 代議員: 89名

いずれも任期は、2022年度代議員総会終了後から2024年度代議員総会終了までとなります。



◇◇◇ 年次学術集会準備報告 ◇◇◇

第75回日本酸化ストレス学会学術集会



会 期: 2022 (令和4) 年5月25日 (水) ~ 26日 (木)
会 場: つくば国際会議場
〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3
<https://www.epochal.or.jp/ja/>
→ WEB開催へ変更予定
会 長: 松井裕史
(筑波大学医学医療系消化器内科)

例年になく厳しい寒波が日本を覆い尽くす中、日本酸化ストレス学会会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。第75回日本酸化ストレス学会年次学術集会は2022年5月25-26日Web開催とします。当初つくば国際会議場での開催を予定しておりましたが、オミクロン株の発生等不確定な事象を勘案し、決定いたしました。対面での集会を楽しみにされていた会員の皆様、申し訳ありません。而して、一臨床家の端くれとして、感染症蔓延の一因を会長自ら発起することは肯ぜず、忸怩たる思いの中対面開催を断念いたしました。どうかご理解の程よろしくお願い申し上げます。

今回の年次学術集会のテーマは私の一存で「盲亀の浮木、優曇華の花 -Serendipityを求めて-」としました。30年以上も前、小職も大学院生でした。仮説を証明すべく黙々と細胞を培養し、証明に失敗し、また細胞を準備する。そんな日々の中で、射したほんのわずかな光を縁に彷徨い続けいくつかの思いもよらぬ贈り物を手にしました。直向きさの継続は必ずや成功体験につながるということを、この会を通して共有できれば幸甚に存じます。



ちよっぴり補足。。。 (事務局より)
盲亀の浮木、優曇華の花 とは?



「盲亀の浮木」は、百年に一回浮上するという目の見えない亀が偶然、海に浮かんでる木の穴に頭を入れること。「優曇華の花 (うどんげのはな)」は3千年に一度花をつけるという花。いずれも出会ったり、物事が実現したりする事が極めて難しいことの喩えとされています。(『雑阿含経』より)

学会賞・学術賞・学術奨励賞の公募

学会賞・学術賞は、毎年年初より公募、学術奨励賞は、年次学術集会演題公募の際に募集いたします。各賞の規定など詳細は、学会HPをご確認ください。 <http://sfrrj.umin.jp/rule-kitei.htm>

学会賞・学術賞 公募中

応募締切: 2022年3月31日 (木曜日)
自薦他薦は問いません。応募規定をご確認の上、多数のご応募お待ちしております。

*学術奨励賞応募: 第75回演題募集の際に同時公募いたします。応募の際には、**会員歴・入会年度**にご注意ください。

〈規定より抜粋〉
2 当該年の4月1日において40歳以下で会員歴3年を有するものとする。ただし、女性にあっては前項の年齢制限を45歳以下とする。
→ 入会した年度が1年目となります。
(今年の応募は2020年度入会以前が対象者となります。2021年、2022年入会者は対象外となります。)

◇◇◇ 支部だより ◇◇◇

東海支部

日本酸化ストレス学会東海支部第9回学術集会在、2021年2月13日(土)に金城学院大学をZoomのホスト会場としてWeb開催されました。教育講演として三重大学大学院医学系研究科教授 村田真理子先生による「炎症関連発がんにおけるエピゲノム異常」についてのご講演があり、引き続いて11演題の一般講演を行いました。Web開催ということで、参加者は例年より多く、61名(一般33名、学生28名)でした。参加者のほとんどは、東海地区でしたが、東海地区以外(山形県、福井県、福岡県)からの参加者も4名ありました。



主催者としては、初めてのWeb開催ということで、色々心配していましたが、議論も対面開催と同様に活発に行われ、大きなトラブルもなく無事に開催できました。情報交換会が開催できず、皆様と交流ができなかったことがたいへん残念でした。



今回の支部学術集会は、2022年2月19日(土)に三重大学(実行委員長及川伸二先生)で開催されます。

日本酸化ストレス学会東海支部 第10回記念学術集会

日時 2022年2月19日(土) 13時00分～17時30分(予定)

会場：三重大学(対面)またはWeb(Zoom)開催

*感染状況により開催方法が異なります。決まり次第お知らせいたします。
三重大学(対面)での参加者の定員は約60名です。

実行委員長：及川伸二(三重大学)

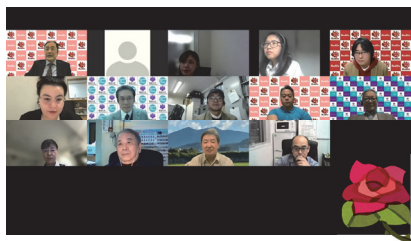
参加費：学生無料。*一般は、開催状況により異なりますので後日ご案内。
プログラム：

1. 記念講演「酸化ストレス研究と東海支部10年のあゆみ」
中川秀彦 先生(名古屋市立大学大学院 薬学研究科)
2. 教育講演「抗炎症薬によるがん発生および悪性化の抑制機構」
川西正祐 先生(鈴鹿医療科学大学)
3. 一般講演

関東支部

第34回日本酸化ストレス学会関東支部会学術集会在2021年12月18日土曜日に神奈川歯科大学をZoomのホスト会場としてWeb開催されました。本来でしたら2020年2月に開催されていた関東支部会を、ご存知のように、COVID-19によるパンデミックで延期していたので、当初は延期後もテーマと企画を引き継ぎ予定でしたが、今回支部会会長の李昌一が2度目の担当であり、2024年度の日本酸化ストレス学会学術集会の会長を担当する予定ですので、延期した支部会のテーマと企画を2024年の学術集会で引き継ぐ形で、今回は延期している状況の関東支部会を再開することを第一の目的として、Web開催ということになりました。従いまして、再開の告知期間が間際になりましたが、関東支部会の伝統を引き継いだ若手中心の一般演題16演題の発表に加えて約50名の先生方に参加していただきました。また、今回初めて一般演題の優秀演題賞を創設し、最優秀演題賞1名(Arneta Mujagic・筑波大)、優秀演題賞2名(杉崎リサ・昭和大、Hao Thi Tran・筑波大)が選出され、会の最後に、写真にあるように表彰されました。議論も関東支部会の伝統らしく、大きなトラブルもなく大変活発に行われました。約一か月の録画した支部会の模様をWebで視聴できるサイトも作り、これも無事に終了いたしました。今回の支部会学術集会是今年の12月に芝浦工業大学福井浩二先生が支部会会長として開催される予定です。

関東支部 李 昌一



若手の会

2020年に設立した酸化ストレスに関連する研究に関わる若手研究者のための組織です。

前回のFree Radical Schoolから2年半ぶりの開催となりますが、若手の会発足後、最初のFree Radical Schoolは2022年3月14日(月)に新潟県南魚沼市「やまなみ」におきましてハイブリッド形式で開催いたします。新型コロナウイルス感染症対策として、現地参加人数を制限し、現地参加者はワクチン接種を義務付け、学生は原則オンライン参加とさせていただきます。プログラムや申込み方法等の詳細は若手の会ホームページ(<https://yfrsince2020.wixsite.com/my-site>)で告知いたします。しかしながら、今後の新型コロナウイルス変異株の感染状況次第で、開催形式など変更になる可能性がありますことをご了承ください。若手の会では活動状況をホームページで公表しているほか、随時、会員を募集しています。シニアの先生方にはどうか若手へのお声かけをお願いします。

Free Radical School 2021開催のお知らせ

日時：2022年3月14日(月)9:00～15:00(予定)

会場：やまなみ(新潟県南魚沼市)

〒949-7104新潟県南魚沼市寺尾1494

及びWEB会場(Zoom)

定員：100名(現地15名、オンライン85名)*学生は原則オンライン参加。

参加費：2,000円(学生は無料)

新型コロナウイルス感染症対策として、現地参加人数を制限、ワクチン接種者のみとし、宿泊は1部屋1名、学生は原則オンライン参加とさせていただきます。プログラムや申込み方法等の詳細は決まり次第お知らせいたしますが、例年同様、優秀発表賞も設けますので、是非、積極的な発表のご検討をお願いします。



若手の会のミッション

若手の会の具体的な活動内容として、以下の項目を検討しています。

- 1) 年次学術集会において、若手研究者の意見交換のための交流会を開催します。
- 2) 学生向けサマースクール(現：フリーラジカルスクール)を運営します。
- 3) 年次学術集会において、若手の会主催のワークショップ・シンポジウムを企画します。
- 4) SFRRのネットワークを生かし、若手主体の国際共同研究を推進します。

JCBN(学会オフィシャルジャーナル)情報 (Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition)

JCBN随時オンライン投稿受付中

Online SubmissionのURL

<http://www.editorialmanager.com/jcbtn/>



IF: 3.121
(2020)

頁チャージは会員特別割引価格を設定しています。

※特別審査・掲載なども受付しております。
(別途有料・編集事務局宛にご相談下さい。)

Editorial Secretariat for JCBN jcbtn@nacos.com

～ High Citation Award 受賞の可能性があります! ～

本学会オフィシャルジャーナルであるJournal of Clinical Biochemistry and Nutrition (JCBN)において、前年度第一著者として受理された論文の中で、引用が多く、IF 向上の為に貢献のあった論文に授与されます。受賞者には、賞状と副賞が授与されます。

◇◇◇ 年次学術集会準備報告 ◇◇◇

第76回日本酸化ストレス学会学術集会



会 期:2023年5月24日(水)~25日(木)
会 場:神戸国際会議場
(兵庫県神戸市中央区港島中町6-9-1)

会 長:芦田 均
(神戸大学農学研究科生命機能科学専攻応用生命化学講
座生物機能開発化学教育研究分野・教授)

令和3年6月号のニュースレターにて第76回学術集会開催のご案内を差し上げましたが、再度会期と会場に関する情報をお届けします。開催準備につきましては、これから鋭意進めさせていただきます。引き続き、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

是非、諸先輩の先生方からご意見を賜り、実りある学会にしたいと思っております。特に、医学・薬学系の先生方からのシンポジウムのご提案をお待ちしております。

*** 歴代学術集会 ***

2007年に日本酸化ストレス学会として新たにスタートを切ったからの歴代当番会長は下記の通りです。皆さんはいくつ参加されましたでしょうか？

歴代会長一覧

| 回 | 会長 | 所属 | 会場 | 会期 |
|----|------------|--|-------------------------------|--------------|
| 1 | 第61回 吉川敏一 | 京都府立医科大学大学院医学研究科 教授 | 国立京都国際会館・京都 | 2008.6.19-20 |
| 2 | 第62回 内海英雄 | 九州大学大学院薬学研究院 教授 | 九州大学医学部百年講堂・福岡 | 2009.6.11-12 |
| 3 | 第63回 小澤俊彦 | 横浜薬科大学 教授 | 神奈川県民ホール・神奈川 | 2010.6.24-25 |
| 4 | 第64回 河野雅弘 | 東京工業大学大学院生命理工学研究科 教授(東北大学未来科学技術共同研究センター) | ルツリポートホテル&コンベンション・北海道 | 2011.7.2-3 |
| 5 | 第65回 寺尾純二 | 徳島大学大学院ヘルスバイサイエンス研究部 教授 | 徳島県郷土文化会館・あわぎんホール・徳島 | 2012.6.7-8 |
| 6 | 第66回 豊國伸哉 | 名古屋大学大学院医学系研究科 教授 | ウヅウ愛知・愛知 | 2013.6.13-14 |
| 7 | 第67回 野口範子 | 同志社大学生命医科学研究所 教授 | 同志社大学良心館・京都 | 2014.9.4-5 |
| 8 | 第68回 馬嶋秀行 | 鹿児島大学大学院医学総合研究科 教授 | かごしま県民交流センター・鹿児島 | 2015.6.11-12 |
| 9 | 第69回 赤池孝章 | 東北大学大学院医学系研究科 教授 | 仙台国際センター・宮城 | 2016.8.30-31 |
| 10 | 第70回 長崎幸夫 | 筑波大学数理物理系 教授 | つくば国際会議場・茨城 | 2017.8.28-29 |
| 11 | 第71回 内藤裕二 | 京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学 准教授 | 京都ホテルオークラ・京都 | 2018.5.17-18 |
| 12 | 第72回 稲波 修 | 北海道大学・大学院獣医学研究科 | 北海道立道民活動センター かで 62・7 | 2019.6.27-28 |
| 13 | 第73回 松浦 達也 | 鳥取大学医学部医学科病態解析医学講座 | 米子コンベンションセンター BIG SHIP (→WEB) | 2020.6.11-12 |
| 14 | 第74回 藤井 順逸 | 山形大学大学院医学系研究科生命環境科学専攻 生化学・分子生物学 | 仙台国際センター (→WEB) | 2021.5.19-20 |
| 15 | 第75回 松井 裕史 | 筑波大学医学医療系 消化器内科学 | つくば国際会議場 | 2021.5.25-26 |

全国各地、各々の当番会長のお膝元での開催を中心に、今年で15回目を迎えます。コロナ禍において、第73回、第74回とWEB開催が続いており、この度第75回もWEB開催の決定がなされました。現地開催は第72回の北海道以来となりますが、また各地で当番会長ご当地自慢をお伺いできる事を祈念しております。

また、年次学術集会の際に選出される歴代の学会賞受賞者は以下の通りです。学会賞は、本学会会員であり、会員歴10年以上で、その業績が日本の酸化ストレス研究を代表しかつ世界に通用するものであり、本会の運営あるいは発展に特に顕著な功績のあった研究者に対し授与するものです。今後の受賞者についても目が離せないところです。

| 受賞年 | 受賞者名 | 受賞者所属 | 場所・会期 |
|-----|-------------|------------------------|---------------|
| 1 | 2008年 長野 智雄 | 東京大学大学院薬学系研究科 教授 | 京都(第61回) |
| 2 | 2009年 河野 雅弘 | 東北大学 未来科学技術共同研究センター 教授 | 博多(第62回) |
| 3 | 2010年 末松 誠 | 慶應義塾大学医学部化学教室 教授 | 横浜(第63回) |
| 4 | 2011年 宮田 直樹 | 名古屋市立大学薬学部 教授 | 北海道(第64回) |
| 5 | 2012年 安西 和紀 | 日本薬科大学 教授 | 徳島(第65回) |
| 6 | 2013年 馬嶋 秀行 | 鹿児島大学大学院医学総合研究科 教授 | 名古屋(第66回) |
| 7 | 2014年 赤池 孝章 | 東北大学大学院医学系研究科 教授 | 京都(第67回) |
| 8 | 2015年 山本 順寛 | 東京工科大学応用生物学部 教授 | 鹿児島(第68回) |
| 9 | 2016年 内藤 裕二 | 京都府立医科大学大学院医学研究科准教授 | 仙台(第69回) |
| 10 | 2017年 浦野 泰照 | 東京大学大学院薬学系研究科・医学系研究科 | 筑波(第70回) |
| 11 | 2018年 今井 浩孝 | 北里大学薬学部衛生化学 | 京都(第71回) |
| 12 | 2018年 下川 宏明 | 東北大学大学院医学系研究科 | 札幌(第72回) |
| 13 | 2020年 藤井 順逸 | 山形大学大学院医学系研究科 | 米子(WEB)(第73回) |
| 14 | 2021年 豊國 伸哉 | 名古屋大学大学院医学系研究科 | 山形(WEB)(第74回) |

◇◇◇ 学会報告 ◇◇◇

SfRBM 2021
28th Annual Conference of the Society for Redox Biology & Medicine

Date: November 15-18, 2021
Venue: WEB開催



平山 暁
(筑波技術大学東西医学統合医療センター)



SfRBM21(Society for Redox Biology and Medicine 28th Annual Conference)は2021年11月15日~18日にかけて開催されました。私自身は3年に1度のペースでSfRBM Annual Meetingに参加しており、今回は2018年のシカゴ以来です。とは云っても、COVID-19の影響で、開催はVirtual、会場も”Chat Room”と呼ばれ、いさか味気ない感は否めません。

International Virtual Conferenceは、その気になれば家のコタツからでも最先端のレクチャーを聴ける、テクノロジーの進歩そのものですが、その分時差という難敵が待ち構えています。SfRBM恒例のSunrise Free Radical School(これを楽しみにしている参加者も多いでしょう)も日本時間では午前1時開始、その後のメインのセッションは午前2-4時と、齢を重ね朝方になっている身には非常に辛いスケジュールです。現地参加でも時差があるのは同じですが、そうは言っても違いがあります。おまけに夜中に学会に参加していたからといって外来は休めないし…、というわけで、実際にon timeで聴けたセッションはPoster Sessionとあと少数、残りはon demandでの視聴です。

私個人として興味深かったのは18日にスケジュールされたTargeting Redox Therapyのセッションで、これは直前のSunrise Free Radical Schoolとセットで、レドックス治療の臨床応用への大きな期待と困難を改めて認識させるものでした。ご承知のように酸化剤を応用した大規模臨床試験は1980年代以来成功例が非常に少なく、なかなかこの現状を打破しきれない状況が続いています。試験デザイン設定や評価法の進歩も求められています。やはり生体内のレドックス状態をきちんと反映し、かつ臨床現場で容易に測定可能なbiomarkerの開発が必須でしょう。ポスターセッションは朝5時からで、これは自分には有り難い時間でした。Virtualでのポスターの方法も多くの学会で試行錯誤していますが、今回は1枚のポスターに録音したプレゼンテーションを添付する方法でした。勝手によくわからず、中西先生に「ポスターのサイズはいくつにすれば良いの？」などと聞いていたのですが、良く考えるとみる方はスクリーン上なのでA0だろうがA4だろうが変わりません(それなら普通にスライド形式のプレゼンでも良い気もします)。やはりオンデマンドでみる参加者が多いのか、セッション時間中のon line chatでのディスカッションは数人でしたが、数日後にview counterをみると100人越になっていて驚くと同時に、やはり現地で対面でディスカッションしたいという思いがこみ上げてきました。

オミクロン株の急拡大も続いている現状では、とくに臨床現場に携わる先生方はその影響の大きさを考えると、これまでのような対面での学会開催はまだまだ困難と言わざるを得ません。一刻も早くこれまで通りに対面での国際学会が開催できるよう切に願っております。

写真1枚目はオンラインでのポスター発表の様子、2枚目はSfRBM2018でのシカゴの風景です。やっぱり後者が良いですね。



1枚目 オンライン画面



2枚目 シカゴ風景

◇◇◇ 関連学会 開催案内 ◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにでも随時情報を掲載予定です。

関連国際学会

SfRBM 2023 & SFRR 21st Biennial Meeting

Date: November 16-19, 2023

Venue: Punta del Este Convention & Exhibition Center,
Punta del Este, Uruguay

Contact : <https://sfrbm.org/>

Society for Free Radical Research (Europe) Meeting,
joint meeting with the Plant Oxygen

Date: September 28-30, 2022

Venue: Liege, Belgium

Further information: <https://www.redoxbiologycongressliege.be/>

Gordon Research Conferences : 下記の通り1月2月は中止。

January and February 2022 Conferences have been withdrawn as of January 6, 2022.

新 シリーズ:酸化ストレスの轟き 第7回



米国に印した抗酸化研究のマイルストーン

寺尾 純二

(甲南女子大学医療栄養学部)



1982年から1年間、私は米国オクラホマ州の州都にあるOklahoma Medical Research Foundation(OMRF)に研究留学した。日本でバブル景気が始まる3年前で円相場が1ドル~235円だった時代であり、本学会の前身のひとつである日本過酸化脂質研究会が日本過酸化脂質学会に名称変更した頃である。食品を対象とした研究から、生体内の酸素ラジカルに関する研究に移りたいと私は考えていた。当時OMRFではミクロソームの脂質過酸化反応を活性化に研究しており、深く考えることもなく赴くことになった。食品添加物・合成抗酸化剤であるBHTの摂取が乳がんモデルであるラットの乳腺腫瘍形成を抑えることをOMRFグループは発見しており、私に命じられたテーマは「経口摂取したBHTが標的的部位である乳腺に蓄積することを明らかにすること」であった。私はそれまで動物実験の経験がなく、早速飼育ゲージから逃がしてしまったラットに指を噛まれてしまった。テクニシャン(技術職員)に告げると、すぐに研究所内の医務室に連れていかれ、有無をいわず注射を打たれた。これが破傷風予防ワクチンとわかったのは後日である。研究室ではテクニシャンたちが化学発がん剤を投与したラットの腹を覗いては、ダイムとかニッケルとか言いあっていた。これは、米国硬貨(5c:Nickel,10c:Dime)を基準に乳腺腫瘍の大きさを目測していたのである。



アバウトなものだと思ったが、米国らしいも感じた。さて、私の実験は抽出方法に難儀して失敗続きであったが、帰国3か月ほど前によく簡便な方法を発見し、それから帰国まで一気に動物実験を行ってデータを得ることができた(1985年, Anal. Biochem. 論文発表)。今から考えると、代謝されにくいBHTを実験対象としたのが運よく、もう一つの合成抗酸化剤であるBHAを対象にしていれば様々な代謝物に惑わされて論文化はできなかったと思う。BHAについては、WattenbergらがBHAをマウスに経口摂取すると肝臓のGSH-トランスフェラーゼ(GST)活性を高めることを1981年のCancer Res.に発表しており、OMRFでの実験の間に私はその論文に目を通していた。しかし、その後のAntioxidant Response Element (ARE)やNrf-2/Keap-1 pathwayの発見に至る研究の流れには全く思い至らなかった。という私の体験から、外国に限らず全く違った環境に身を置いて自分の研究を見直すことを若い研究者にお勧めします。

◇ SFRR International & Asia News ◇

*2021年もコロナ禍により、主たる関連国際学会の開催が延期・中止となり、若手奨励賞(Young Investigator Award)の授与も三月開催のSFRR2021(台湾開催の延期で、バーチャルで開催)時のみでした。

次回 SFRR Asia Biennial Meeting

The 10th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research-Asia (SFRR-Asia)

Date: 2022年11月末~12月初旬頃 (予定)

Venue: 韓国 大邱(予定)

会長: Prof. Young-Joon Surh (ソウル大学)

担当: SFRR Korea

*2021年5月開催予定が延期されたもの。



開催が予定されておりますが、今後のコロナ感染状況により変更の可能性があります。今後の情報にご注意ください。

【オフィシャルジャーナル】 “Free Radical Research”

-12 issues per year

-2020 Impact Factor: 4.148

出版社: Taylor & Francis



http://sfrj.umin.jp/asia/en_Official_Journal.htm

会員特別価格での定期購読の受付を行っています。

ご購入希望の場合は、事務局までご連絡をお願い致します。

*Taylor & Francis より継続的にサポートを頂き、若手の奨励賞を授与しています。

Travel Award, Young Investigator Award, Prestigious Poster Award等(過去実績 副賞:800€、500\$, 1年間の無料購読など)

*SFRR Japan(日本酸化ストレス学会)は、SFRR International並びにSFRR Asiaの下部組織です。日本酸化ストレス学会の会員の方は自動的に両国際組織のメンバーとなっております。

→ 関連学会(国内外)において、会員割引価格が適応されることがあります。海外の学会へ参加等の際に、会員証明書を求められた場合は、事務局まで、英文にて氏名・所属・生年月日を通知の上、ご依頼下さい。証明書を発行します。

◇◇◇ 事務局より ◇◇◇

新しい年が明けましたが、例年になく厳しい寒さが列島を覆っております。コロナ前であれば、日本のパウダースノーを求めて多くの海外からの旅行者が北海道などを中心に押し寄せていたと伺いました。一説には、北海道の女性はヒールを履いて雪道を闊歩できるようですが、慣れが人を進化させるのかもしれないですね。事務局を置く京都は積雪量も少なく、一旦雪が降るとバスも車もノロノロ、人はペンギン歩き、、、というところでしょうか。



昨秋には、感染者減少傾向が見られ、世界でも稀に見られる新型コロナウイルス感染拡大を抑え込んだ国として注目された我が国ですが、年末年始を挟み、変異株オミクロン株の勢いにより、感染再拡大の兆候となりました。With コロナの生活が軌道に乗りかけ、感染対策を継続しながら、いよいよ対面の学会・研究会活動が活発に...という流れに待ったがかかったようで残念です。ワクチン接種の効果も一因として重症化リスクが抑えられているのは朗報ではありますが、未知のウイルスの対策法が一日も早く究明され、ただの風邪のようになることを願うばかりです。コロナ禍の閉塞感を吹き飛ばすような明るいニュースが増える年になりますように、また、会員の皆さんと笑顔でお会いできる日を心待ちに、2022年1月号をお届けいたします。

NL問合せ/連絡先: sfrj@koto.kpu-m.ac.jp



SFRR Newsletter 2022年1月号

発行:2022年1月26日

一般社団法人日本酸化ストレス学会事務局

(総務委員会:半田 修・犬童寛子・中西郁夫)

法人事務局:〒602-8048

京都市上京区下立売通小川東入西大路町146番地 中西印刷(株)内

Tel:075-415-3661 Fax:075-415-3662

内容に関するお問い合わせ: E-mail:sfrj@koto.kpu-m.ac.jp

HP: <http://sfrj.umin.jp/>